

機関紙『産業経営』

早稲田大学産業経営研究所は、1974年7月の大学評議員会の議を経て創設され、同年10月にその業務を開始しました。そして翌1975年12月に、当研究所の研究分科会での真摯な研究努力の成果を公表するために、本誌『産業経営』が創刊されました。それ以来、本誌は当研究所の内外から高い評価を得てきました。

創刊から四半世紀以上の歳月が過ぎ、2002年度に本誌の学内外での位置づけを再考しました。産業経営に関する問題について、当研究所分科会での研究活動の成果を発表するだけでなく、関連する研究成果を外部からも取り入れることにより、この分野での研究水準の向上に資することを新たな目的として追加することにしました。そして、研究の内容を充実させ、その成果発表の質をさらに高めるために、2003年度よりレフリー制度を導入することにしました。

『産業経営』では、レフリー制度導入以来、広く一般からの投稿を受け付けています。投稿の範囲は、産業経営に関するすべての問題についての研究を含みますが、本研究所の過去および現在の研究課題に関わる研究を歓迎します。原稿が投稿されると、編集委員会が査読者（レフリー）を委嘱します。査読者からの審査報告をうけ、編集委員会が慎重に審議して、投稿原稿の採否を決定します。査読の過程では、論旨や必要な資料の改変、論文叙述の推敲などの修正を求める場合があります。投稿の際には、投稿規程と執筆要領の最新版、および刊行スケジュールを参照してください。なお、本研究所の研究課題と適合しない投稿や推敲不足の原稿については、審査をお断りすることがありますので、予めご了承ください。

いかなる時代にも、研究所相互の寛容の精神が自由な研究活動を促進し、それによって独自性のある研究成果が生み出されていくものです。さらに、産業経営に関する研究においては、産業界と学界のインターフェイスも重要になってきます。本誌では、学術論文としての水準を維持しながらも、明解な文章と明晰な論理をとまなう論考を掲載することで、研究活動の促進と産学連携に貢献する所存です。

『産業経営』編集委員会